



1982年慶応義塾大学卒業後、アメリカ銀行に入行。トレーディング業務に従事し、1989年バイスプレジデント。1997年日興証券に移り、1999年日興シティ信託銀行為替資金部次長。2002年金融コンサルティング会社アセンダントを設立、取締役役に就任。

■オートチャーティストとは、

オートチャーティストとは SaxoTraderGO で取引できる商品のチャート分析を自動で行い、確率が高いと考えられる売買戦略を表示する取引支援ツールです。チャート分析はテクニカル分析でも最も基本かつ重要なチャートパターン（各種の反転、継続パターン）、キーレベルパターン（トレンドライン）、フィボナッチパターン（リトレースメント等）が完成した場合、あるいは形成中に一覧表示されます。一覧表示では、各種パターンの詳細、取引を行う場合のターゲット等の情報が表示され、表示する情報をフィルターで絞り込むことが可能です。この売買戦略レポートでは、この一覧表示の中から翌週にも有効と考えられる通貨ペアを毎週3通貨ペア、ピックアップしていくこととします。

- [10分でできるオートチャーティスト・クイックマニュアル](#)
- [オートチャーティスト・完全ガイド](#)
- [オートチャーティスト・チャートパターン分析入門](#)

■先週のレビュー

まず、先週のストラテジの振り返りです。

（1）USDJPY の買い（シグナル点灯 3月28日）TP=107.58、SL=104.56

先週執筆時点のレートが 106.579、その後のレンジは 105.66～106.87 と仕切り水準のどちらにも到達していません。先週のレポートでは欧州を中心にイースター休暇を挟むこともあり、あまり動意は期待できないために4時間足でピックアップを行いました。それでも動きが乏しい一週間となりました。今週執筆時点での USDJPY は 106.814 と同レートで仕切ることとします。23.5pips の利益となります。

（2）EURAUD の売り（シグナル点灯 3月28日）TP=1.5994、SL=1.6133

先週執筆時点のレートが 1.6096、その後のレンジは 1.58981～1.60985 と EURAUD は執筆時点をほぼ高値に売りが目立つ週となりました。目立った材料も無い中で EURUSD が上値の重たい展開を続けたこと、また3日には豪中銀の政策金利発表がありましたが、こちらも予想通り据え

置きで AUDUSD への影響は限定的でした。EURAUD は TP の水準が 1.5994 で執筆翌日の 30 日に決済されています。102pips の利益となりました。

(3) EURCAD の売り (シグナル点灯 3 月 28 日) TP=1.5809、SL=1.6008

先週執筆時点のレートが 1.59212、その後のレンジは 1.56607~1.59275 と、こちらの EUR クロスも執筆時点をほぼ高値に売りが目立つ週となりました。4 月 3 日に TP サイドの仕切注文がついています。これは 3 日に USDCAD での CAD 買いが出てことによるものですが、先週わずかな損失で仕切った USDCAD も本日現在で TP 水準を視野に入れてきました。CAD 買いという 2 週前の選択も中期的な視野では間違いではなかったことは確認できました。なお EURCAD は 112.2pips の利益でした。

■デンマーククローネ (DKK) とユーロ (EUR) の関係

今週ピックアップした通貨ペアのひとつに USDDKK がありますが、DKK は EUR にペッグされています。これは歴史をユーロがスタートする前、欧州各国でレガシー通貨が使われていた時代に遡ります。私もインターバンクディーラーではドル円が最も長かったのですが、一時期ドイツマルクディーラーをしていてその取引量があまりに多いため（多いとひとりで東京外国為替市場のドイツマルクの 4 分の 1 以上を取引していました）世界中の投機筋に睨まれたのは損益的には大打撃でしたが良い経験でした。

話がそれましたが、DKK は当時 DEM（ドイツマルク）とペッグすることで、通貨安定の目標を目指していました。ユーロがスタートする時に DEM は EUR の最大構成通貨となりましたが DKK は EUR 統合には参加せず、レガシー通貨のままで続ける決定をしました。当時は国民投票が行われましたが、国民投票で否決された結果です。EUR スタート後にも国民投票が行われましたが、そこでも否決され現在に至っています。

そして DKK は EUR にペッグされた状態が継続していて、EURDKK は±2.25%（これはレガシー通貨が EUR に統合する前にそれぞれの通貨が変動幅を±2.25%に抑えるという ERM 制度によるものです）の変動幅に抑えられています。他のクローネ（SEK、NOK）に比べて DKK の変動が小さい理由には長い歴史があるという話でした。

■今週の特徴

じっくりと中期的なスタンスで見ると日足の選択も良いのですが週次のレポートでは 4 時間足が比較的じっくり来ると思いますので、今週も 4 時間足からのピックアップを試みました。

確率 65%以上でフィルターをかけると私が選ぶまでも無いほど選択肢が少なくなってしまうので、今週は確率 60%以上まで範囲を広げます。また 6 日には米国雇用統計がありますので、ドルでの振れを避けたいという意図もあり 3 つの内、2 つは対ドルではあるものの、ドルの売買の方向性が異なるものを選び、双方でリスクヘッジしあうポートフォリオ的な考え方をしてみました。NZDUSD の買い（ドル売り）と USDSGD の買い（ドル買い）です。双方ともアジア地域の通貨という共通性も考慮しています。

そして、もうひとつは USDDKK の買いです。これは理由はただひとつ、デンマーククローネだからですね。サクソバンク証券といえばデンマークです。オートチャートリストで DKK がピックアップされるのを待ち構えていました。ただ、DKK は EUR とペッグされていますので、USDDKK は EURUSD と対ドルでは似たような動きをするということは前述の通りです。

■NZDUSD

最初は NZDUSD の買いです。NZD は 3 月中旬から高値を切り下げ安値を切り上げる典型的な三角もちあいを形成していました。三角もちあい（経過期間的にトライアングル）のチャートパターンとしても納得できる美しいパターンであったと思います。



オートチャートリストにおいても NZDUSD のトライアングルの上抜けと認識し、すでに上昇基調となっていますが、短期的にはグレーのゾーン（下端 107.58）をターゲットとする動きが 31 時間以内と指摘されています。

戦略：NZDUSD の買い（シグナル点灯 4 月 4 日）執筆時点 0.73047

TP=0.7362、SL=0.7195

■ USDSGD

もうひとつは USDSGD の買いで、NZDUSD の買い（ドル売り）と組み合わせてドルの動きを吸収しようという考えもあります。形としては NZDSGD のクロスということも出来ませんが、さすがにニュージーランドかシンガポールの企業もしくはファンドマネージャーで双方に関わっている人以外は目を向けることはなさそうです。



こちらは下降ウェッジの上抜けです。高値安値ともを切り下げるウェッジ状の下降チャンネルを上抜けていて、こちらもチャートパターンとしては美しい部類に入ります。長年チャートを見てみると美しいパターンに注目したくなるものです。そういう点でオートチャートリストは時にあまり美しくないパターンも引っ張ってきますが、こちらはあくまでも過去のパフォーマンスをベースにしているので私とは視点がやや異なりますね。

この下降ウェッジの上抜けターゲットとしては、グレーのゾーンの下端 (1.3181) となっていて、時間的には 50 時間以内に到達する可能性が指摘されています。

戦略：USDSGD の買い（シグナル点灯 4 月 4 日）執筆時点 1.31255

TP=1.3181、SL=1.3053

■ USDDKK

今週のトリは USDDKK です。今週のコラムと概要とでしつこく書きましたので、ここでは簡単に留めますが、USDDKK の買い（ドル買い）は戦略的には EURUSD の売り（ドル買い）とかなり似通っています。

USDDKK の買いはトライアングルの上抜けによるものですが、ここでのトライアングルは先の NZDUSD におけるトライアングルに比べると美しくありません。下側のサポートラインが価格に接している箇所が少ないことや上下のバランスもいまひとつです。NZDUSD のトライアングルと比べていただけると私の言いたいことはご理解いただけると思います。



ターゲットとしてはグレーのゾーン（下端が 6.1061）となっていて、時間的には 20 時間以内に到達する可能性が指摘されていますが、シグナル点灯が 3 日ですから既に時間的なターゲットは経過しつつあります。パターンの形や時間経過等気になる点はあるものの DKK です。初登場ですからここは大目に見て OK としましょう。

戦略：USDDKK の買い（シグナル点灯 4 月 3 日）執筆時点 6.06591

TP=6.1061、SL=6.0382

【本レポートについてのご注意】

■本レポートは、投資判断の参考となるべき情報提供のみを目的としたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

■本レポートは、作成時点において執筆者およびサクソバンク証券（以下「当社」といいます。）が信頼できると判断した情報やデータ等に基づいて作成されていますが、執筆者および当社はその正確性、完全性等を保証するものではありません。また、本レポートに記載の情報は作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。

■本レポート内で示される意見は執筆者によるものであり、当社の考えを反映するものではありません。また、これらはあくまでも参考として申し述べたものであり、推奨を意味せず、また、いずれの記述も将来の傾向、数値、投資成果等を示唆もしくは保証するものではありません。

■お取引は、取引説明書および約款をよくお読みいただき、それらの内容をご理解のうえ、ご自身の判断と責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者および当社は責任を負いません。